

# カイトン株式会社

秋田市寺内字大小路207-79

## 最新型の自動車解体機導入により、環境に配慮した解体作業と資源リサイクル率の向上を実現

【事業計画名】最新型自動車解体機の導入による、環境に配慮した資源の循環型社会づくり事業



導入した自動車解体機



廃車の解体作業の様子

### 取り組みの経緯

カイトンは秋田市にある老舗自動車リサイクル企業である。車種を問わず使用済み自動車を引き取って解体し、ドアやエンジンなど再利用可能な部品はリサイクルパーツとして販売。鉄・銅・アルミニウムなどは金属資源としてリサイクルにまわす。平成14年には県内の自動車リサイクル業としては他社に先駆けて国際規格である「ISO14001」を取得している。

人口減少にともない自動車の引き取り台数が減少傾向にあるなか、当社ではインターネットなどを通じて4チャンネルの仕入・販売ルートを確認させており、それをフル活用した営業を行っている。

自動車リサイクル法の施行にともない、使用済み自動車の資源リサイクル率向上が求められるなか、当社でも環境ニーズへの配慮やリサイクル率向上への具体的な対応について検討を重ねていた。

### 実施内容

従来から使用していた自動車解体機は、排ガスに含まれるPM等の粒子状物質が多く、環境ニーズに配慮された機種とはいえない状態であった。また、最新機に比べ作業効率が悪く、リサイクルパーツの取り出しやより多くの解体処理をこなすには様々な問題が生じていた。

そこで、資源の取り出しの効率化および資源の再利用化と、環境ニーズへの配慮を実現することを目的として最新型の自動車解体機を導入した。

導入した解体機は、従来機に比べPM排出量の90%を削減でき、窒素酸化物も約8%削減が可能となった。また、これまで1台につき20分程度要していた作業時間が、1台につき15分程度に短縮され、1日あたり処理台数が7.5台増加した。処理台数の増加により、パーツの分別量が増えたことで、国内外への出荷数増加による売上拡大が見込める体制を整えることができた。

### 事業の成果

使用可能なエンジンパーツなどは毎月コンテナ3～4本程度の量を東南アジアなど海外3カ国に輸出している。畠山社長は「15台の解体車両があった場合、リサイクルパーツに使用できる分量は1台分程度しかない。最新機導入で処理能力は向上したが、リサイクルできる部品を素早く見極める作業員の『目利き』が重要。」と語る。

リサイクルパーツの保管庫には1万点以上の商品が番号やQRコードで管理され、迅速な発注体制が整えられている。商品状態を詳細に記録した管理がなされているが、「全てはお客様からの信頼のため。」と畠山社長は商品管理に対する思いを述べている。



各種パーツが並ぶ中古部品倉庫



ブレーキランプが並ぶ棚



国際規格ISO14001取得済み

自動車のドア、エンジン、バンパーなどあらゆる部品はまだ使える状態にもかかわらず、廃自動車にされている状況にあります。当社では、廃自動車から補修用リサイクルパーツとして使用可能な部品を取り出し、その他は金属資源として、可能な限りの資源リサイクルに努めております。皆様に適正価格で中古部品を使ってもらえる仕組みが必要と考えています。当社の補修用パーツを選んでいただいたお客様に「カイトン」のブランドを信頼いただき、ファンになってリピートしていただけるよう取り組んでいます。



代表取締役  
畠山 敏美さん

### 今後の活動予定

現在、あらゆる職種で人材不足が顕著となるなか、畠山社長は働き手から選ばれる会社となるよう福利厚生面の充実のほか、コミュニケーションの徹底に心を配る。元々、当社の離職率は低いが、昨年から20代前後の若手3名が入社。その全てが社員紹介による採用となっている。「社員が自分の働く会社の良さや魅力を仲間に伝えてくれる企業になれば良い人材は集まらないと考えている。人口減少や高齢化の影響を受けて、人手不足に陥っている企業の話に耳にするが、まずは自社が働き手にとって魅力ある企業になっているか、今一度確認することが必要でないか。」としている。



## カイトン株式会社

代表者 代表取締役 畠山 敏美  
設立 昭和58年10月  
資本金 2,300万円  
従業員数 20名  
業種 自動車リサイクル業  
TEL 018-846-6512  
FAX 018-880-1432  
URL www.a-kaiten.com